

兵庫県最先端技術研究事業（COEプログラム） 研究結果概要

□研究プロジェクトの概要

研究プロジェクト名	終末期医療におけるAIとIoTを利用した「癒し」と「人とのつながり」プロジェクト
代表機関	株式会社メネルジア
共同研究チーム構成機関	神戸学院大学、市立芦屋病院
研究分野	AI・IoT・ビッグデータ

□研究結果の概要

【①研究プロジェクトの概要、特色】

終末期医療における孤独は社会問題となっている。入院することで家族とのつながりが疎遠になる。本プロジェクトは、家族と簡単につながることでできるシステムの構築を行う。現在、様々なツールやデバイスが発売されているが、高齢者や終末期患者には利用困難なものばかりなので、ハンディキャップを考慮した包括的なツールの開発を行う。

【②研究の成果】

研究の結果：2月より病院にてプロトタイプの使用を開始したところであり、詳細なデータ収集はこれからである。医療者を対象に、使用した上での有用性についてアンケートを行った結果、本システムの必要性は高く、使いやすい状況ではあるが、画面が正しく表示されないこともあるとの回答で、デバイスやインターネット環境の問題の可能性はあるが、状況を確認し改善したい。

技術的に明らかになった点：今回、今後のプロダクト展開を視野に入れた際に、各施設・各利用者単位でのデータ収集が必要となったため、iryoo.com上のデータベースに上記データを管理する目的のテーブルを新たに追加した。しかしながら、実際にプロダクト展開を考慮した際には、より使用者の操作の詳細がわかる使用ログの管理や、編集機能等のデータ更新を伴う操作に対して利用者には利用制限を掛ける等の権限機能の強化が必要となることが明らかとなった。

本県における科学技術の活性化、発展及び社会・経済への発展への貢献：本研究の結果より、実用的なプロトタイプが完成したので、全国展開につながるよう検討してゆきたい。

【③本格的な研究への展開】

本研究は、10月に採択され、プロトタイプの開発・作成を経て、2月より市立芦屋病院にて使用を開始した。引き続き3月末まで、使用した上でのアンケート調査実施、データ収集、データ解析を行う。

【④今後の事業化に向けた展開】

本研究の結果より、実用的なプロトタイプが完成したので、全国展開につながるよう検討したい。

【⑤地域的波及効果】（技術基盤強化等の効果、地域社会・経済発展への寄与）

本プロトタイプを全国に展開することで、コロナ禍で、入院患者の家族が自由に病院を訪問し面談を行えず、終末期の孤独死につながる社会問題を解決できるものとする。